

(ひでりた)

2026年9月2日鰯ヶ沢町日照田地区で発生した土砂災害について（速報）

調査日：2026.9.20



弘前大学

2026年9月の大雨に係る被害に遭われた皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。

農学生命科学部 鄒 青穎（ツォウ チンイン）
大学院地域共創科学研究科 小岩 直人



斜面崩壊の調査結果

調査地（図1）は、スギ植林地（約50年生と推定）に位置する。斜面の傾斜は 35° 以上と比較的急である。調査地周辺の地質は、鮮新統である舞戸層の軟弱なシルト岩から構成されており、周辺には向斜構造が認められる。このような地質条件に加え、シルト岩は風化や乾湿変化などの影響を受けやすく、斜面表層の強度低下につながる可能性がある。

今回確認された斜面崩壊は、以下の特徴を有する。

- 崩壊は、急傾斜斜面で発生しており、斜面勾配は $35\sim 40^{\circ}$ 程度である。
- 崩壊地は、過去にも崩壊が発生したと考えられる既往崩壊地の一部に位置する（図2）。（ただし、過去の崩壊時期は現時点では特定できない。）
- 崩壊規模は小規模で、崩壊源の面積は小さい。
- 一方で、崩壊土砂の移動域は崩壊源や堆積域に比べて相対的に長い（図1）。
- 崩壊は比較的浅く、崩壊深は1 m未満と推定されることから、表層部で発生した崩壊と考えられる（図3）。
- 崩壊によって露出した岩盤には、多数の亀裂が認められる（図4）。

露出したシルト岩に認められる亀裂は、シルト岩の風化、乾湿の繰り返し、植生の根の侵入などによる岩盤の劣化に伴って発達した可能性がある。特に、亀裂が発達することで岩盤が細かく分断され、岩盤表層の強度が低下するとともに、斜面表層の不安定化につながった可能性が考えられる。

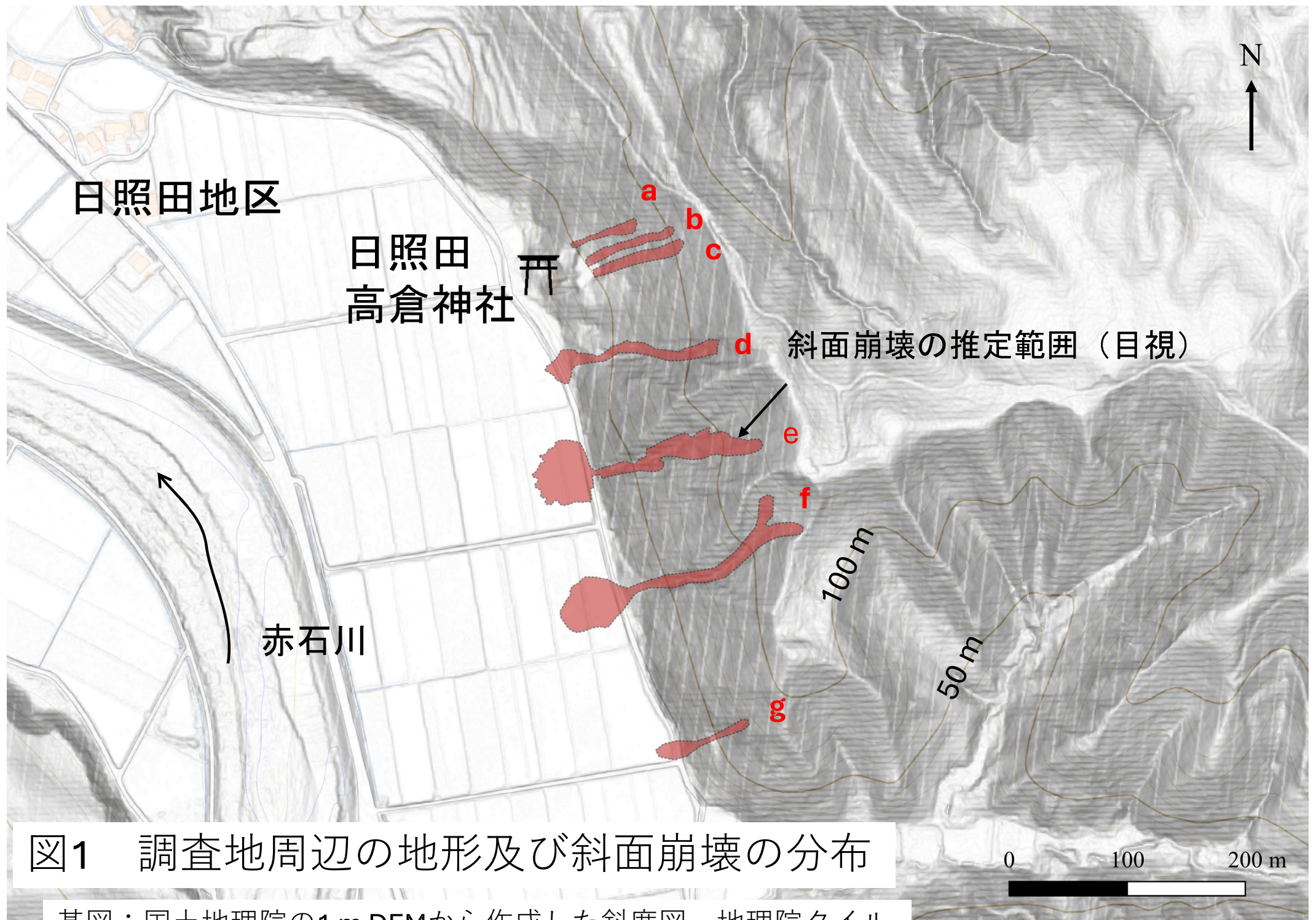
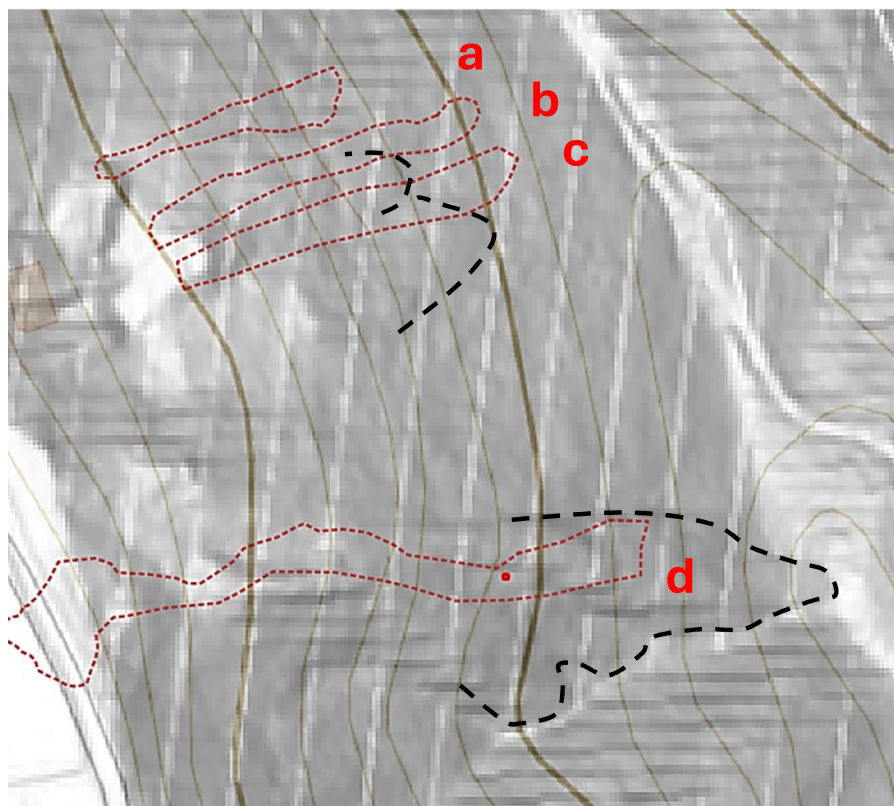
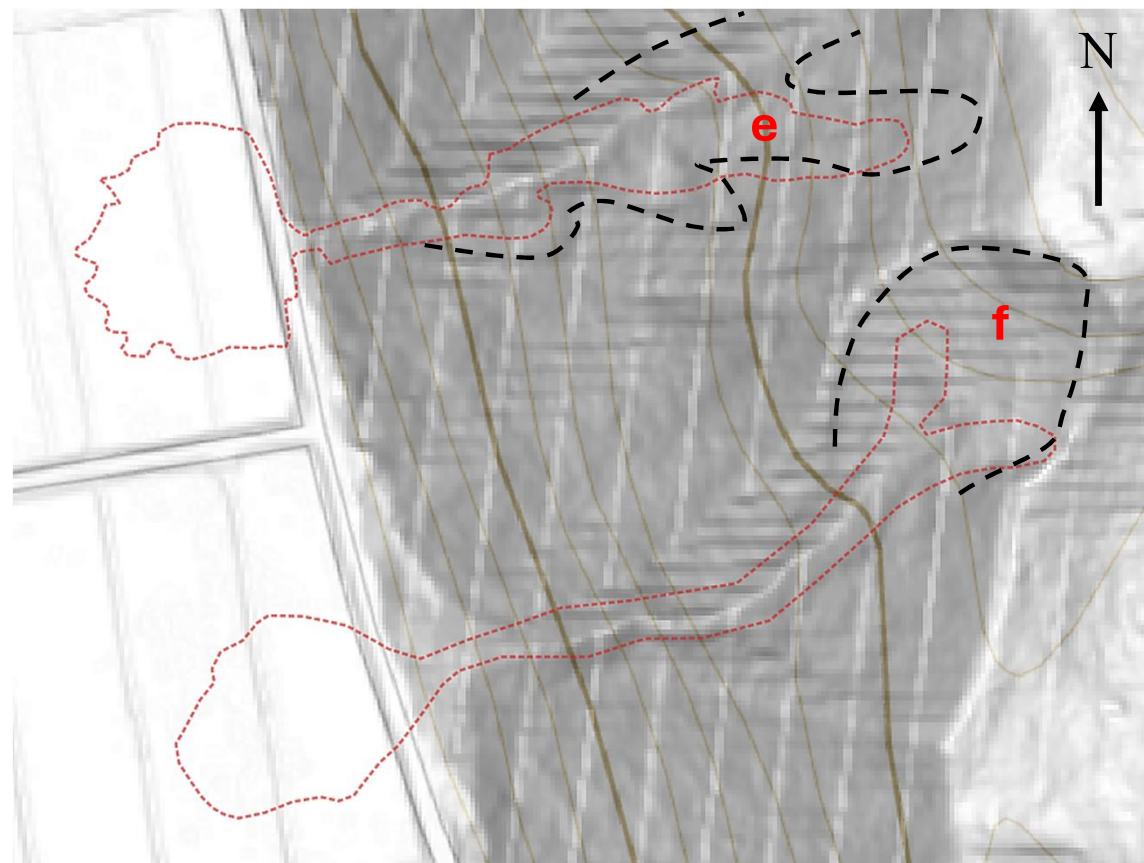


図1 調査地周辺の地形及び斜面崩壊の分布

基図：国土地理院の1 m DEMから作成した斜度図、地理院タイル



基図：国土地理院の1 m DEMから作成した斜度図、地理院タイル



赤点線：斜面崩壊（2026年9月）
黒点線：既往崩壊地（時代不明）

50 m

図2 今回の崩壊地と既往崩壊地の位置関係
（今回の崩壊地（点線）は、過去に発生したと考えられる既往崩壊地（黒点線）内の一部に位置している）



図3 崩壊発生源の状況（斜面崩壊aの例）



図4 崩壊露頭に認められる岩盤の亀裂

被災前

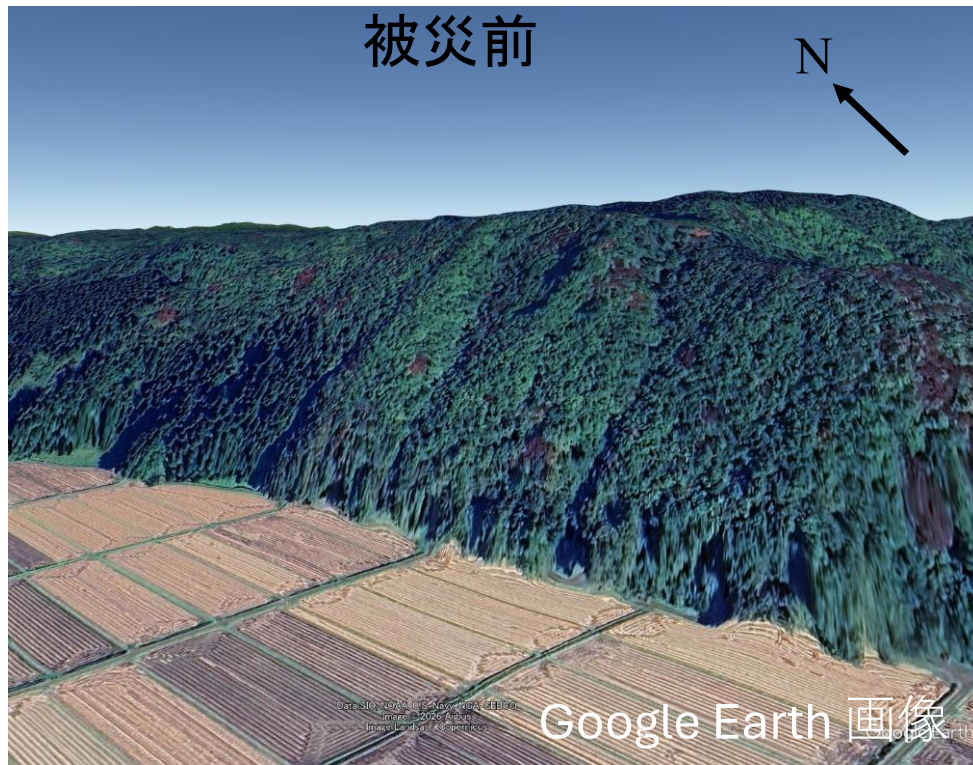
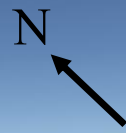
(日照田高倉神社)

被災後

(参考)



被災前



被災後

(参考)

